

●ISU の発表（2004.04.16）

2004ISU 総会議案・最終版の発行に際して

ISU は、6 月 7-11 日にオランダ Scheveningen の Kurhaus Hotel、ここは 1892 年に ISU が設立された場所ですが、ここで開かれる 2004 総会の最終議案を発表いたしました。ISU 規定に従い、2004 年 2 月に発行された原案に対する修正案が、加盟国、理事会、委員会から出されました。緊急提案は、総会で受理された場合に限り、議案に加えることができます。

世界 77 の ISU 加盟国は、さまざまな提案について議論し、投票します。原案からは、特にフィギュアスケート、アイスダンス、シンクロナイズドスケATING の新ジャッジングシステムに関して、いくつかの変更点を取り入れられました。新ジャッジングシステムは、現代の科学技術を用いることで、ジャッジが選手のプログラムにある個々の要素をより客観的に、定められた基準に従って評価できるようにしています。

本会議に続いて、フィギュアスケート・スピードスケートの分会があります。ISU 総会議案のすべては、www.isu.org で参照できます。

新ジャッジングシステムの修正

ISU は、新ジャッジングシステムの原案を発行して以来、加盟国や一般のスケートコミュニティから、貴重な意見を受けました。

ジャッジの独立と責任

どのようなジャッジングシステムでも、一部が審判の主観的意見に依存することは避けられませんが、成功は、こうした審判の独立性と、責任を十分に保証する厳しい評価手続きを合わせることによると、ISU は強く信じています。しかし残念なことに、審判に加えられる外部からの圧力が、たとえ小さなおところのものでも排除できないことは、歴史が示しています。こうした背景を踏まえ、ISU が提案する方法は、審判にかかるプレッシャーを減らし、審判が独立して選手の演技を評価できるようにしています。さらに国際競技会でジャッジを保護するために、ISU 選手権大会、GP 大会（シニア）、オリンピックでは、ジャッジの名前を採点と関連付けることはしません。

しかし逆に、2004-05 シーズンのジュニア GP 大会といくつかの国際競技会では、すべてのジャッジの採点で結果を成し、結果表では採点に続いてジャッジの名前を載せます。

より進んだ評価

新ジャッジングシステムは、2003-04 シーズンの間に GP 大会で実施され、ISU の公式大会におけるその効果について計られました。新ジャッジングシステムは、豊富な統計情報や即時のビデオリプレイといった利点のおかげで、スポーツ競技の主観的なジャッジングにおいても、評価の方法と責任とを究極のレベルにまで到達させることができると明らかになりました。

審判の独立性をさらに保障するため、ISUは、加盟国にはジャッジを推薦する権利を認めつつも、ISUの主要大会におけるジャッジの選出を、よりバランスの取れた方法にすることを提案しています。提案が採択されれば、ISU大会におけるジャッジは各地域に割り当てられます。

ISU選手権大会、GP大会(シニア)、オリンピックでは、ISUの任命した審判評価委員会が競技会直後にその場で会合を持ち、審判が責任を全うしていることをできる限り早くに保証します。例えば選手権大会では34,000以上の点数があるわけですが、評価の手順には、こうした点数をコンピューターを利用して素早く詳細に分析しますし、現代のビデオリプレイシステムも用います。委員会の答申は技術委員会と理事会に直接送られ、深刻な誤りや繰り返されたバイアスについては、罰を科することになります。これは、評価方法の大きな改善です。伝統的な方法では、決定はシーズン後にレフェリーの報告にのみ基づいて行われ、二重チェックはされていませんでした。

ISU理事会は、技術委員会の助力を得て、2004-05シーズン間の新ジャッジングシステムの実施状況を監視し、規定の修正・追加が必要でないか決めます。

新ジャッジングシステムの利益

ドイツ・ドルトムントで新ジャッジングシステムについてのフォーラムに続いて起こされた議論とフィードバックの後、ISUは、新ジャッジングシステムが6.0システムから大きく改善されていると、強く信じています。新ジャッジングシステムの主な利点は下に挙げています。

その他の詳細については、2006総会後有効となる包括的ISU再建計画を含めて、ISU公式サイト www.isu.org をご覧ください。

新ジャッジングシステムが6.0システムより優れている点

1. ジャッジにではなく、選手に対して焦点が集まる。
2. 技術要素の価値が誰にでも分かる。価値は、6.0システムのようにジャッジによって変わるのではなく、固定される。
3. ジャッジは選手の順位をつけるのではなく、演技の質を評価する。その評価による点数が集計されて、結果となる。
4. ウェルバランスプログラムが、アスリートすべてに公平なフィールドを与える。選手はいつどのように自分の能力を見せるかという計画が、スポーツの戦略上重要になっている。
5. 滑走順が選手の得点に影響を与えない。6.0システムでは、競技の初めの方は、後で演技するよりも低い得点がつけられた。
6. 選手はより低い位置からでも、自身の能力によって勝つことができる。順位を上げるために、他の選手のミスに頼る必要はない。
7. 選手の得点は演技をそのまま表している。選手のどこが強くどこが弱いかについては得点に反映され、他の選手に影響されない。
8. 中間平均、すなわち高い採点、低い採点を無視して残りを平均することで、異常な採点が結果に影響されない。
9. 選手やコーチは、順位を気にすることなく得点から、改善されたところ、これから取り組まねばならないところが分かる。

10. ジャッジの評価が、順位に関わらず明文化された基準に従うことで、正確になる。
11. コーチや連盟は、選手の得点を選手の経歴の管理に使うことができる。
12. ジャッジは、全選手のすべての特徴を記憶して比較する必要がない。各選手の1つひとつの特徴を個別に評価することに集中できる。
13. システムの生み出す統計が、経歴評価、ファンの興味、メディア報道の助けとなる。
14. ファンや父兄は、最終結果がどのように決められたかを理解できる。